県立広島大学

失語症者の理解障害と リハビリテーションに関する研究

保健福祉学部　コミュニケーション障害学科
助教　　氏名　津田　哲也（つだ　てつや）

連絡先　県立広島大学　三原キャンパス　1321 号室
Tel 0848－60－1265　Fax 0848－60－1266
E-mail　t-tsuda@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野：　言語聴覚障害学

キーワード：　失語症，理解障害，意味・語彙，言語リハビリテーション

● 現在の研究について

脳卒中や脳外傷によって失語症になると，話せないばかりでなく，相手の言っていることばを理解することも難しくなります．そのため，コミュニケーションがうまく取れなくて社会や学校などで様々な困難が生じます．

そこで私たちは失語症者の理解障害に関して下の研究にとりくんでいます。

1）失語症者ではどのようなメカニズムで理解障害が生じるのか？

理解障害と言ってもその特徴は患者さんによって非常に様々で多彩です．例えば「りんご」ということばを「みかん」と聞き間違える失語症者もいれば，「キャベツ」と聞き間違える失語症者もいます．前者はよく似た意味への誤り，後者はやや遠い意味への誤りです．または「犬」と聞き間違えた場合はさらに遠い意味の取り違いと考えることができます．当然、音の似ていることば「リング」に聴き誤る場合もあります。

私たちは，こうした失語症者の理解課題での反応の違いから，失語症者がどのようにことばを聞いているのかを調べています．

2．どうすればコミュニケーションがもっとうまく取れるようになるか？

理解障害の生じるメカニズムはいろいろと考えられますが，そのメカニズムを明らかにし，「どんな伝達方法で，どんなことばなら理解できるか」が明らかになればコミュニケーションも取りやすく，言語リハビリテーションもより効果的になると考えます．

さまざまな症状を示す失語症者の聴覚的理解のしくみについて，どんな特徴があるか，または一定の傾向があるかなどの調査を行っています．

● 今後進めていきたい研究について

理解障害のメカニズムや特徴によって，効果的な訓練法が開発できる可能性があります。

こうした訓練は医療や福祉機関で提供されている言語リハビリテーションサービスの発展につながると考えます．

また，それぞれの失語症者の理解力や特徴に応じたコミュニケーション方法を提示することで，コミュニケーションをより円滑にすることもできます．

将来的には失語症者の症状や特性に合わせ，理解できることばを選んで伝えられるようなコミュニケーションツールの開発や応用も考えられます．

言語障害が原因で就業や復学などの社会復帰が困難な方々のために，我々の研究がお役に立てると考えます．

● 地域・社会と連携して進めたい内容

言語リハビリを実施している医療機関や介護サービス事業などと連携が可能です．